

地域母子保健福祉情報紙 No.267

公益社団法人 母子保健推進会議

# 親子保健

お や こ ほ け ん

定款第 1 章第 3 条 目的（抜粋）  
国及び地方自治体  
関係諸団体と連携協力して  
母子保健の重要性を啓発し  
母性の健康を守り たかめ  
心身ともに健全な児童の  
出生と育成に寄与してまいります

## 会長・副会長対談

# 褒めて自尊心を高める親子支援を



母子保健推進会議佐藤保副会長（左）・佐藤拓代会長

すべての入口であることが知られてきて、そこが重要なだと、関係者の認識が変わってきているように思います。そうすると欲が出てきまして、母子保健と歯科ともっとコラボできることがあるのではと思うのです。

例えばフレイルについても、高齢者に対しては研究や対策が

することも重要ではと考えています。母親からすると、甘いものはあまり早くから食べさせてはならない、食べたら歯みがきをしなければならぬ、仕上げ磨きをしなければならぬ、といった「～ならない」ということが多く、プレッシャーになっているのではないのでしょうか。そこに楽しさがあまり見えてこない。

近年歯科界からも、子ども虐待が口の中を見ればわかるということについてデータも出ています。その視点からも、歯について無頓着な親は、生活全体、子どもとの向き合い方についても充分でない、それでは、楽しさを感じることが少ないのではないのでしょうか。これまでの健診や保健指導は、何かを見つける、チェックする視点になっている部分もあるので、例えば仕上げ磨きの指導でも、親子が

祝・健やか親子21全国大会（母子保健家族計画全国大会）

「健やか親子21全国大会」開催にあたり、本会議佐藤拓代会長と公益社団法人日本歯科医師会の副会長でもある佐藤保本会議副会長が、母子歯科保健の一層の推進と親子を支えるポイントについて意見を交わした。

### 保健指導に“楽しみ”を加味して

佐藤会長 母子保健の視点から見ますと、「歯」は、以前は部分で捉えることが多かったですが、徐々に人間の生活

進められていると思いますが、子どもに対しては、現在よりさらに、予防的視点をもってクリエイティブな方法でアピールすることが重要ではと感じています。

キシリトールについては、妊娠期から噛むことにより、生まれてきた子どものむし歯の予防にもなる、これはエビデンスもあることですので、おなかの中からのむし歯予防ということで、さらに進めていければと考えているところです。

また、保健指導に「楽しみ」を加味す

### 今月のページ

- 会長・副会長対談 褒めて自尊心を高める親子支援を ..... 1～3
- 令和元年度「健やか親子21全国大会」本会議会長表彰被表彰者功績紹介 ..... 4～11
- 紙上セミナー：8020の里づくり「お口の健康と全身の健康との関係」 ..... 12～13
- 予期せぬに真に対する相談体制の現状と課題に関する調査結果報告④ ..... 14
- 2020年の第5回幼児健康度調査に向けて／児童虐待と法医学の連携強化、母子健康手帳の多言語化に注力 ..... 15
- シンポジウムご案内／日本歯科医師会、新役員就任披露パーティー開く／編集帖 ..... 16

楽しい生活をイメージできるようなメッセージの発信ができたらと思うのです。

**佐藤副会長** まず法整備的に言いますと、母子歯科保健は大変進んでいて、1歳6か月児、3歳児の歯科を含む健診は、母子保健法で必ず受けなければならないので、1歳6か月児、3歳児から12歳児のむし歯が減り続けているのが数字で見ることができ、歯科医師会としても目標を立てやすいということがあります。

2つ目は、歯科は目に見えやすいので、親は子どもにむし歯があるかないかということが明確で、むし歯がある子の親は引け目を感じていることが多い。背景に、むし歯が減ってきているというトレンドがあることと、むし歯は予防法が確立していることがあり、歯科医師としては、それを守ってくればむし歯にならないというロジックに陥りやすい。しかし、具体的に予防行動をしているお母さんたちにアンケートをとると、仕上げ磨きをしていない親が結構多く、改善が進んでいない。つまり、歯科医師が「この方法で行えばこうなる（エビデンスもある）のだから、こうしてください」と指導することが、親からは必ずしも受け入れられていないということです。

加えて、以前ですと、おばあちゃんや近所の人が教えてくれたことが、最近では親子が孤立している場合や、もともとそのような文化がないところもある。

先生の仰るとおり、楽しみが実感できれば行動につながってくるのですが、では仕上げ磨きをして何が楽しいか。

仕上げ磨きは、親が子どもの口の中を観察するので、子どもの成長を実感できる楽しみがある。わが子の下の歯が初めて生えてきたときの喜び、感激を親は忘



佐藤保副会長

れないでしょう。真珠が見えてきたような感じで。この歯を守りたい、という気持ちをどうやって維持し続けるか、ということが重要なのだと思います。やはり基本は、子どもの成長をみる感動、歯が生えてきたときの感動を思い出していただくことが大事ではと思います。

## 子どもの歯への関心から

### 家族の健康づくりへ

**佐藤会長** 「当たり前」ができていないと思うと、ましてや健診で指摘されたりすると、親はつらいし、楽しみも見い出せないですね。

**佐藤副会長** 逆に、人は忘れやすいですから、歯科クリニックに親子で来た時に「初めて歯が生えた時は、どんなことを感じました？」と聞くと、その時の感動を思い出して、こちらのアドバイスも受け入れやすいかもしれないですね。子どもの小さな成長の感動を共有できれば、父親も仕上げ磨きをするなど、育児に積極的になるかもしれませんね。

**佐藤会長** 父親が子どもの歯に関心を持てば、自分の歯にも関心を持ち、家族の健康に関心をもつようになるかもしれないですね。

**佐藤副会長** 保険者の方と話をすることがあるのですが、家族に喜んでもらえるような工夫をして健診や保健指導を行っている事業所は、とても評判がよいと聞きます。家族ぐるみ、人と人とのつながりを大事にする保健活動ができれば

継続できるし、それにより家族の健康度があがるのではないかと思うのです。

## 職種間連携に必要な“のりしろ”

**佐藤会長** 子どものむし歯罹患率が高いところは、祖父母が甘いものを食べさせるからと、祖父母に対して指導をしなければならないという話になりますが、それより、祖父母が孫の面倒を見なければならない状況がある中で、「～してはいけない」だけでなく、家族を丸ごと知っている保健師や歯科衛生士と口の健康や甘いものを与えない孫との遊び方などについて一緒に考えて、トータルな、「これをしないようにしましょう」だけではない保健指導をしたらと思います。

**佐藤副会長** 先日7つの学会が合同で行う学会があり、医師、歯科医師、看護職等さまざまな専門職がシンポジストとして話したのですが、それぞれ専門の話はするが、どうやって協調し連携して行くかということが話題になりました。保健所管内に専門医がいない、いても1人という地域が日本には数多くあります。何かをしようとしても、あるものでやるしかない。それぞれの専門性、果たすべき役割を認識しつつ、他の専門職や地域の方等と理解し合い工夫して、コンビネーションと言うか…

**佐藤会長** あれがない、これがないからと委縮してしまう健康づくり運動ではなく、ないところから工夫して作り出す、それぞれが“のりしろ”を出して隙間を埋めて…

**佐藤副会長** そう、のりしろ。それと、現場の話なしに職種間連携はないし、その地域なりの工夫をして実際にやってみる、職種間連携は、その積み上げですよね。



親子を支援するための対談は多岐にわたった

### お口の中からわかる家族関係

佐藤会長 日本には昔から「歯固め」とか「お食い初め」など、口に関するいろいろな行事がありますね。そういう行事をきっかけにして、親や家族に歯について関心をもってもらえるといいですね。

佐藤副会長 こういう習慣は大事にしたいですね、あらためて子どもの成長について家族で話ができる。

佐藤会長 歯は見えやすいですし、家族のいい話題になりますよね。

「お口を開けて見せてごらん」という関係性も大事ですね。

佐藤副会長 私は、0歳児保育をしている保育園に歯科医師として31年間かかわってきましたが、「はい、お口開いて」と言ってあーんと口を開けた子は、仕上げ磨きが嫌いな子でした。母親がその姿を見て「家ではこうではあり

ません」とびっくりする。そうではないのです。親からすると、10回のうち7回開いたとしても、3回開かなかった方が記憶に残るので「ウチの子は口を開かないから仕上げ磨きが大変」となるのです。

口の中を見ることで、家庭のことがわかることもあります。

例えば、口の中が汚れている子は何かあるなど。保育園では、途中入園の子は、0歳からいる子よりむし歯が多いのです。また、3、4歳で普段ウチで口を開かない子はすぐわかると同時に、家族の中でよい関係ではないのではと思います。実際に口の中を見てみると、汚れていたり、むし歯がある割合が高いことが多いのです。

### 褒めて自尊感情を高めて

佐藤会長 今のお母さんたちは、人から何かを指摘されることを恐れるばかりに「ああでなくては、こうでなくては」と思っていて、普通にやっていることを褒められるとすごくうれしい。お母さんたちの自尊感情も高まる。

佐藤副会長 褒められるというのは許容されること、あなたのやっているこ

とは正しいんだと認めてくれる行為ですから。

グラグラしてきた歯を抜くときでも、「頑張ったら先生に褒めてもらおうね」と言うと、子どもは頑張ります。そばで見ている親も、頑張って成長していく子どもの姿を見る喜びがあります。

佐藤会長 人間が子どもを育てて次の世代を育てていくというのは地道な作業ですべきことが乱立しているだけに、日々の生活で何を大切にすべきかということが見えなくなっている気がします。

その中で必要なのは、やはり「褒める」ことだと思います。自尊心を高めて、毎日が楽しいな、子どもがかわいいな、こんな反応ができるようになった、ということ、さまざまな職種、それぞれの立場から伝え褒めていくことで、子育てに自信と楽しみが持てるようになるのではと思うのです。

今日は、母子歯科の連携のあり方、親子を支える際のポイントが少し見えたように思います。ありがとうございました。



佐藤拓代会長

お口の恋人 LOTTE

# むし歯のない社会へ。ロッテ キシリトールガム

もっとおいしく、歯を丈夫で健康に。キシリトールの世界が広がりました。大切な歯のために、キシリトール習慣！

消費者庁許可 保健機能食品(特定保健用食品) (公財)日本学校保健会推薦 (一社)日本学校歯科医会推薦

食品初! 日本歯科医師会推薦商品 XYLITOL®

www.lotte.co.jp  
かんだ後は包んでくずかごへ。

令和元年度「健やか親子21全国大会」において、地域で母子保健の向上のために長年寄与され、公益社団法人 母子保健推進会議会長表彰を受賞される個人の部56名、団体の部4団体の功績の一端を紹介します。なお紙面の都合により、以下のとおり省略させていただきます。昭和=S、平成=H、令和=R、母子保健推進員=母推

## 個人の部

**【岩手県】澤村敦子（遠野市保健師）** S57年遠野市入職。助産師資格を生かし母子保健事業に従事。H26年4月、副主幹として母子保健業務統括。H6年母子健康手帳交付時全数面接、H12年全戸家庭訪問等を立ち上げ。H14年市内出産できる医療機関がなくなり妊婦健診時通院費助成事業開始。H19年12月「遠野市助産院ねっと・ゆりかご」の健康相談・遠隔妊婦健診等妊婦が安心して生み育てる支援充実に努める。H27年全国に先駆けて子育て世代包括支援体制を整備し、総合相談窓口を設け特定妊婦・要支援親子への早期対応、切れ目ない支援に尽力。

**【宮城県】伊藤真理（登米市助産師）** S56年公立佐沼病院で分娩に携わり、母親教室「お産クラス」立ち上げ、妊産婦保健指導開始。同病院で出産した産婦全員に退院後電話相談実施。助産師の産婦担当制導入、寄り添う支援に尽力。妊産婦及び育児中の保護者自主グループ立ち上げ支援、新生児訪問（年400件）を実施し、母親のみならず父親や祖父母の支援者となり「つながり」を持ち支援。H12年からは小学生対象「いのちの教室」、命の尊さ、自己肯定感を育む支援を開始。中・高校生にも対象を拡げ、年間1000人に思春期生徒の気持ちに寄り添う支援を実施している。

**【秋田県】遠藤由美子（横手市保健師）** S57年平鹿町、H7年横手市に勤務。H31年4月

# 56名4団体の方々に

～保健師主幹。S63年乳幼児健診体制確立。母親学級で多職種と連携した保健指導展開。H5年度ゆとり館開所、円滑な健康診査実施に尽力。H16年度4歳児健診、H21年度5歳児健診開始。H23年度5歳児健康相談全市展開。H元年度発達遅延の早期発見早期療育の礎を築く。不妊治療助成制度、予防接種の任意接種助成推進、市全体の舵をとり保健師を牽引、公衆衛生向上へ寄与した功績は大きい。

**【山形県】島貫洋利（医師）** S49年米沢市医師会入会、市健康増進事業、健康体力づくり事業、母子保健業務等の保健衛生全般の向上発展に寄与。S39年発足の米沢産婦人科集談会毎回出席、症例報告や統計の検討、新検査法等の紹介を行う。日本産婦人科医会・学会山形県支部の中心的役割として長年尽力。分娩の際の緊急事態には応援にかけつける連携体制構築。母体死亡率、新生児死亡率減少等小児科医とも連携をとり、また、婦人科検診に積極的に従事し、地域の健康管理増進に取り組む。H28年県知事表彰受賞。

**【茨城県】島袋みずえ（龍ヶ崎市助産師）** S56年4年間助産師として医療機関従事。H9年龍ヶ崎市新生児等相談嘱託員、助産師の専門性で、乳児家庭全戸訪問や乳幼児健診時の保健指導従事。年100件以上の新生児訪問、2000組以上の母子に関わり家族を含めた支援に尽力。不安・戸惑いを抱える母や家族に寄り添い、安心して地域で子育てのできる環境づくりに注力。母乳育児が軌道に乗るよう手技を含めた実践的な支援を行う等、家族の成長を見守り、継続的に携わり、母子保健事業の推進に多大なる貢献をしている。

**【栃木県】荻原敏子（高根沢町保健師）** S58年高根沢町入職。妊婦健診、乳幼児健診の受

診勧奨（受診率100%目標）推進、家族を含めた健康相談等、地域全体の健康水準の向上に努めた。H20年保健センター所長就任。工場を有する地域で遠方からの転入者が多いため母親同士の仲間づくり事業実施、相談事業充実に努める。H27年健康福祉課長就任、子育て世代包括支援センター開設に尽力。H30年～こどもみらい課長、子育て支援体制充実、児童虐待や貧困家庭の課題解決に向けネットワーク構築推進。母子保健の推進、市民の身体及び精神衛生の向上に尽力した。

**【栃木県】田沼かおり（県東健康福祉センター保健師）** S60年栃木県入庁、真岡保健所配属。管内看護教諭と思春期保健ネットワークづくり、ピアカウンセリング活動推進。H4年県内看護師・保健師養成所、母子保健活動の経験を生かし、小児看護学等担当、1歳6か月児健診項目の有効性等の調査研究。県東健康福祉センター健康支援課長として、広域的母子保健業務を統括し、管内保健師の支援・育成、小児在宅ケアシステムネットワークづくりに尽力。長きにわたり、保健・医療・福祉・教育等関係機関と協働し、母子保健の向上に貢献した。

**【埼玉県】市川ひろみ（助産師）** S58年～23年間病院勤務、産科・婦人科看護や約500件の分娩助助。病棟副部長3年、病棟師長7年務め、安全で質の高い周産期医療提供。地域で多職種と連携し継続的に母子を支援。地域での母子支援の必要性を感じ「母乳育児相談室」と「アロマテラピーサロン」開設。6670件の乳房ケア・子育て相談実施。産婦新生児訪問事業（年500件）、両親学級講師受託。14年間埼玉県立大学非常勤講師、後進を育成。H28年～埼玉県助産師会さいたま

# 心よりお祝い申し上げます



平成30年度「健やか親子21全国大会」式典

市地区長。H29年公衆衛生事業功労者に対する知事表彰受賞。

**【埼玉県】 渡邊真木子 (歯科衛生士)** H10年～さいたま市で乳幼児歯科健診の歯科指導、子育て支援センター・幼稚園・保育園歯科保健事業等実施。H13年～県8020運動推進特別事業フッ化物洗口・塗布開始、小児、障がい児のう蝕予防に貢献。さいたま市教育委員会の依頼を受け8020の歯の健康教室、学校歯科巡回指導を行う。H23年～3年間東日本大震災で避難していた福島県双葉町の子どもや高齢者に口腔ケア等ボランティア活動実施。H20～22年埼玉県歯科衛生士会理事。H27年歯科保健功労者表彰(知事表彰)受賞。

**【千葉県】 林陸代 (習志野市歯科衛生士)** H2年習志野市入職。29年間地域保健活動に従事、赤ちゃんからお年寄りまでの市民の健康保持・増進に尽力。母子保健分野では妊娠期から妊婦本人に加え、夫、子どもを含めた家族全員の口腔衛生や、むし歯予防の啓発に務め、保健師と協働で、個へ、家族へ、地域へ向け活動。教育委員会・師歯科医師会と協働し、H29年度フッ化物洗口事業導入、全市立小・中学校への導入に向け活動中。H26年度、「切れ目ない母子保健活動」(習志野版ネウボラ)のマニュアル化にリーダーとして携

わる。

**【神奈川県】 遠藤徳之 (医師)** 勤務医を経てH16年～自院で子どもの病気や発育・発達、予防接種の話等育児教室開設、地域に密着した母子保健活動に貢献。H18年～学校医、園医、小規模保育所の嘱託医。感染症ガイドラインリーフレット

を作成、学校や行政に配布し重宝されている。H23年～小田原医師会理事。H25年～同医師会母子保健・学校医委員会委員長。神奈川県母子保健福祉委員会委員、小田原市子ども・子育て会議委員等を務める。H23年に小田原医師会感染症研究会を立ち上げ医師・保育士対象の勉強会を年4回開催、保育環境の安全に寄与。

**【神奈川県】 平野珠麻 (助産師)** H2年～慶應義塾大学・東京大学医学部付属病院で妊娠から分娩・産後ケアに携わる。不妊の時期から妊婦期の保健指導等集団指導施行、延べ840件の出産に立ち会い、母乳分泌促進ケア等を延べ1800人に対応。NICU・小児病棟では、母子関係確立に向け育児技術習得等援助。H20年～池川クリニック、育児指導や卒乳までのケアを電話相談も含め延べ1000名に実施。小児科が併設、幼児期・学童期・思春期の子育て支援も行う。H28年～大学の非常勤講師として未来の母子保健を担う人材育成に携わる等広く母子保健の向上に寄与。

**【富山県】 高野道子 (滑川市母推)** H11年～母推、妊婦や乳幼児家庭訪問、乳幼児健診を通して予防接種推奨や子育てに関する相談対応等を行う。H15年～4か月健診時に、「はじめての絵本との出会い体験」として絵本の

読みか聞かせを実施。H19年～こんにちは赤ちゃん訪問事業に協力、母親に寄り添い、育児ストレスや不安の軽減に努める。会報誌「あゆみ」を発行、同市協議会の活動を市民にPR、手作りおもちゃや飛び出す絵本作り等母親が楽しみながら子育てするために創意工夫。H21年度～手作りおもちゃを会員全員で作成、赤ちゃん訪問時配布。H21年より同協議会副会長。

**【富山県】 森田信子 (射水市母推)** S63年～旧大島町母推。30年にわたり、看護師としての専門性を活かしながら訪問活動や地域の子育て支援活動に尽力。親子ふれあいサークル「ほかぼかタイム」の開催、絵本の読み聞かせ、手づくりおもちゃ等で親子から好評を得た。もぐもぐ教室(離乳食教室)やママ検診(子宮がん検診)等にも協力。H30年～R1年富山県母推連絡協議会理事、現在同協議会監事。H30年～射水市母推連絡協議会会長として組織育成や会員との交流を図り、ケーブルテレビを通じた活動の紹介等実施。同協議会は、H29年度健やか親子21全国大会において厚生労働大臣表彰受賞。

**【石川県】 刀禰純子 (輪島市母推)** H14年輪島市子育てリーダー(母推)に就任。H18年市町合併以降、新輪島市母推として活動。H15年に子どもの生まれた家庭への訪問活動「先輩ママのお祝い訪問」開始。H19年～こんにちは赤ちゃん訪問事業協力、核家族や転入者が孤立しないよう身近な相談役として母親の育児不安の軽減に取り組む。H20年～子育て支援センター「子育て広場(びよびよ広場、うさちゃん広場)」、ママのための「ほっとサロン」活動に寄与。歯の衛生週間にあわせて保育所を巡回、紙芝居やペープサート等でむし歯予防活動を行う。

**【福井県】 宇野順子 (越前市看護師)** 国保国高診療所、へき地医療の坂口診療所で長年診

療介助業務に従事、地域住民の健康相談、患者・医療スタッフより絶大な信頼を得て地域医療の向上に貢献。保健センターとの併設という条件を生かし、地域保健活動の基盤を作りあげ、診療所閉鎖では患者に対し配慮を欠かさず、円滑な移行を行った。越前市役所では感染症・予防接種等市民の健康推進に貢献。県内初となる「子育て世代包括支援センター」の立ち上げに関わり、妊娠期から子育て期まで親子の総合的な相談体制を確立した。

**【福井県】神戸春美（坂井市母推）** H6年～25年間母推として活動に従事。H26年～27年は坂井市母推会理事として会長の補佐的役割を担い円滑な活動に尽力。旧春江町では母推副会長に4年間従事、他推進員の信頼も厚く中心的役割を担う。春江地区の活動では健診時に折り紙の手づくりおもちゃを作成配布。自主活動を企画・立案、保育所を見学し子育ての現状把握に努める。育児相談・乳幼児健診では積極的に親子とコミュニケーションを図り、母子が緊張しない雰囲気づくりに手腕を発揮。様々な情報を保護者に提供、地域・行政とのパイプ役として尽力。

**【岐阜県】後藤加壽美（医師）** S48年～岐阜大学医学部小児科、S52年～揖斐総合病院小児科に赴任。小児科医が1名という状況の下で、40年にわたり揖斐郡・西濃地区の子どもたちの外来・入院診療に休みなく従事。揖斐川町・旧谷汲村の乳児健診を一手に担い、ワクチン、子育て支援事業への協力等地域保健活動に寄与。岐阜県小児科医会の広報委員長や岐阜県消防・医療連携協議会の女性医師委員を務め、県全体の小児医療の向上にも長年尽力。医学部学生・研修医の実習、研修の受け入れを行い、後進の育成にも注力。

**【岐阜県】祖父江達子（歯科医師）** S54年歯科医師免許取得、S60年歯科医院を開設。以後33年間にわたり地元の子どものための歯科

保健医療に従事。親子ふれあい活動、0歳児の子をもつ親子に歯科の講話や指導を実施。市町村と連携して母子歯科保健事業（妊婦・1歳6か月児・3歳健診等）にも積極的に携わる。H26年より岐阜市の「特定教育・保育施設等を利用する子どもの健康を考える会」の委員に就任、口腔機能獲得期における歯・口腔の育成や食育、ネグレクトの問題に取り組む。H27年～岐阜市歯科医師会理事。H4年～岐阜聾学校、H27年～市立鷺山保育所学校歯科医。

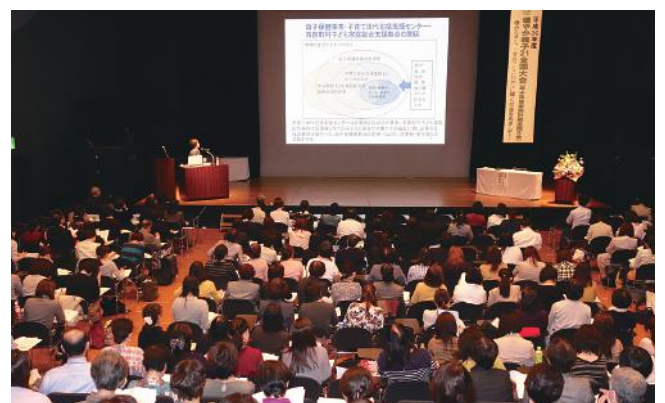
**【三重県】米倉一美（津市保健師）** S62年河芸町入職。H18年津市に合併し津市職員。親子を妊娠期から切れ目なく支援するため産後ケア事業、産前産後サポート事業を体系的に事業化、日本公衆衛生学会等で発信。H28年度厚労省より母子保健推進会議が委託を受け実施した子ども・子育て支援推進調査研究事業における「産前産後サポート事業及び産後ケア事業の概要調査とガイドライン作成」等のため委員として活動、H29年8月には「子育て世代包括支援センター業務ガイドライン」作成に寄与。H29年度～三重県妊娠時アンケートの活用及び評価方法検討委員会、産婦健康診査普及に関わる健診票及びマニュアル検討委員を務める等母子保健の向上へ大きく貢献。

**【滋賀県】齊藤智孝（助産師）** S62年助産師学院卒業後、県内病院に就職。助産ケアや助産技術を学び、妊娠から母乳育児期まで妊産婦に満足のいくケアを提供できるようさらなる向学に努めた。H7年助産院を開業。お産の介助、母乳ケア、母乳育児支援等市の事業受託。妊婦教室や赤ちゃん

訪問、子育て支援事業も行う。H9年～命の学習・性教育を小学校から開始、現在、小学校50校、中学校50校、高校10校、大学3校で280講義を継続して実施。お産と子育てを支える会を助産師10名で結成、いいお産の日と題しイベントを開催。育児相談会や助産師といっしょに太郎坊登ろう会等20年継続している。

**【和歌山県】石原貞代（新宮市母推）** H22年～母推として長年活動。母親が短時間でも育児から離れ、こころとからだをリフレッシュできるように「リフレッシュママ」としてヨガやフラワーアレンジメント等実施、子どもを一時保育で預かり母親が安心して参加できるようサポート。H23年の紀伊半島豪雨災害時には、市内が断水になる中、母推として子育て中の家庭へ水を配布、子ども服を避難所へ届ける等支援活動を行った。H28年同市母推会会長就任。H31年～和歌山県母と子の健康づくり運動協議会新宮・東牟婁支部長就任。母推活動をアピールし、若い方の新規加入等、活動啓発や組織強化にも寄与。

**【和歌山県】増谷妙子（高野町母推）** H11年～20年にわたり母推活動に注力。家庭訪問による受診勧奨、気になる家庭への訪問による子育て支援を行う。保健師、民生委員、地区役員と連携し近隣に溶け込むパイプ役を担う。乳幼児健診、親子教室、健康教育等にも



平成30年度「健やか親子21全国大会」併設「母子保健推進員等及び母子保健関係者全国集会」

協力。母子だけでなく、子どもが巣立った後の家庭にも気を配り、介護・福祉分野にも関わり地域に根ざした活動を実践中である。高齢者の閉じこもり予防のサロンを立ち上げ、そのサロンへ子育て世代も招き入れ交流を図る等世代間の交流を進めている。H29年福祉功労団体代表として高野町社会福祉協議会会長表彰を受賞。

**【岡山県】池本真由美（玉野市愛育委員）** H5年に愛育委員に就任、26年にわたり活動。明るい人柄と保育士の知識・経験を活かし母親の身近な相談役として地域で親しまれている。H21年同委員会会長に就任。以後、幼児クラブの活動支援として芋掘り体験等地域の特性を生かした活動継続。若い世代の転入者が増加しており、子育て中の転入者に子育て情報提供、個別の声かけ等を育児支援を行う。H14年玉野市長表彰、H19年保健所長表彰、H20年岡山県愛育委員連合会長表彰、H23年保健福祉部長表彰、H25年知事表彰。

**【山口県】手嶋康代（下松市保健推進員）** H9年～22年間保健推進員として乳児から高齢者まで幅広い年齢層を対象とした訪問活動、保健事業への協力、子育て支援活動等に尽力。地域の子育て支援事業としてH3年～「星の子クリスマス会」、H16年～「星の子運動会」実施、毎年趣向を凝らし親子の満足度の高いものとなっている。下松市福祉健康まつりでは乳幼児の事故防止の啓発等を行う。「安心して子育てができる手助け」ができるよう研修会開催し、会員の資質向上に努めている。H15年～同市保健推進員連絡協議会理事、H27～同年協議会会長。H27年～山口県母推協議会理事。

**【山口県】坂岡久美子（下関市保健推進委員）** H8年から旧・豊浦町の母推として、合併後は下関市保健推進委員として地域の健康づくり活動や市民の子育て支援活動に精力的に取

り組んでいる。地域に密着した子育て交流の場の提供、むし歯のない子の表彰や手作り人形劇、ペープサートの実施による啓発を実施し、母子保健のサポートを行うH17年～下関市保健推進協議会理事、H31年～同協議会会長。会長としてリーダーシップを発揮しながら、会員と共に熱意をもって活動、地区委員の信頼も厚い。H30年山口県母子保健推進協議会会長表彰受賞。

**【香川県】戸谷幸恵（丸亀市母推）** H17年丸亀市母推に委嘱され、現在も活動中。温かい人柄と強い責任感で市の職員のみならず地域住民の人望も厚く、母親に寄り添い、母子保健の問題点を早期に把握し市に伝える等、行政と住民のパイプ役として活動し、母子保健の推進向上に寄与している。妊産婦・乳幼児の家庭訪問、相談の実施、地区コミュニティと協力して子育て支援事業（子育て広場）で活動、身体測定等実施。母親に積極的に声かけを行い、子育て支援サービスを分かりやすく紹介。見識とたゆまぬ努力により他の推進員の模範となっている。

**【香川県】高島奈津子（観音寺市母推）** H16年～豊浜町の1歳6か月健診に歯科衛生士として従事。親子へのブラッシング指導は、母親の手の甲で力加減を体感してもらう等、分かりやすい指導に定評がある。嫌がる子どもにはお風呂で湯船に浸かってのブラッシングも提案。保護者が歯科医師に相談しそびれたことの相談に親身に応じ、まずは保護者の不安を受け止めることを心掛けている。H15年～豊浜町愛育会会員、H18年同会長。H18年～母推として活動を始め、H19年子育てママが安心して利用できる市内のトイレをまとめた「子育てにやさしいトイレマップ」制作。保護者の気持ちを受け止めた上で必要な情報を提供したり、保健師へつなぐ等支援を生粋の地元民として継続的に行っている。

**【愛媛県】中尾哲子（大洲市保健師）** S57年柳沢連絡所保健師。乳幼児健診・育児相談や、新生児訪問等実施。母推の育成に取り組み、母子健康管理に努めた。H8年母子保健計画策定。小児科医と大洲市の母子保健定期検討会を開催する等、関係機関との連携充実を図る。H22年社会福祉課と連携、乳児家庭全戸訪問、養育支援訪問事業活用。H13年～児童福祉施設で知的障害児童の健康管理。発達の気になる子の早期支援、フォロー教室や発達相談等を開催。H20年～母子保健係長として母子保健活動の見直しを行い、システムの改善や新生児訪問100%を目指し、社会福祉課と連携して虐待予防や子育て支援に尽力。

**【愛媛県】高橋ひろみ（西条市保健師）** S56年より発達の節目（4か月、7か月、9か月、1歳、1歳半、3歳）を捉えた健診や相談会を開催、疾病の早期発見、早期支援に努め、育児支援体制を整備充実。要経過観察児のフォロー教室開催。母子保健計画や健やか親子21計画の立案や見直しを行う。H24年より相談機関であるウイングサポートセンター勤務。幼児から小中学生の発達や生活上の困りごとの助言や支援を行う。当初は幼稚園・保育所の理解を得られにくかったが、共通理解、情報共有に努め、保健センターや教育機関、療育機関、病院機関との連携を深める。安心して集団生活ができるよう、就学後もサポートブックの作成等切れ目なく支援。

**【佐賀県】天野アヤ子（鳥栖市母推）** H6年県内トップをきって結成した鳥栖市母推協議会においてH16年～16年間にわたって母推として活動継続。乳幼児家庭訪問や教室協力を通して、地域での母子保健向上に取り組んでいる。訪問活動は藤木町、つばさ鳥栖を担当し、7か月児家庭訪問では健診や教室のお知らせ、母親に寄り添い、母親が安心できる丁寧な声掛けを行い、育児孤立化を防いでい

る。行政とのパイプ役として活動し、気になる母親の情報をいち早く保健師等に伝達。気軽に相談できる地域での身近な存在として母親たちからの信頼も厚く、他母推の模範。

**【佐賀県】白仁田洋子(多久市健康推進員)** H8年健康推進員就任。23年にわたり母子保健活動に従事。こんにちは赤ちゃん訪問事業としての家庭訪問では手作りの布袋を渡し、母親から喜ばれている。乳幼児の健診未受診者や転入者への訪問を行い、成長・発達支援のための声掛けをし、安心して生活できるよう尽力。支援が必要な家庭を訪問する養育支援事業では育児の技術的援助等実施。健診や児童館のサロン、がん検診の補助スタッフとしても活躍、やさしい人柄が地域の子育て世代に安心感を与えている。同市健康推進員会支部班長等務め、会の活動・発展に貢献。

**【佐賀県】岩永保子(白石町母推)** H8年～旧有明町で母推就任、以後23年にわたり活動。自身の子育てをしながら、身近な理解者・相談者として赤ちゃん訪問や健診・相談の補助活動等、切れ目ない支援活動を実施。赤ちゃん訪問では手作りプレゼントを持参、母親の心身や子育ての悩みを聞き、子どもの成長と一緒に喜ぶやさしい人柄は、他母推へも受け継がれている。研修会にも積極的に参加、自己研鑽に努め、子育て支援に係る協議会へ委員として参画。学校や障がい福祉団体でのパソコン教室を開催する等あらゆる世代と関わりながら地域に根差した活動を継続。H14～15年杵藤支部監事。H29年所属団体本会議会長表彰受賞。

**【佐賀県】竹下幸子(太良町母推)** H16年母推に就任。15年にわたり、赤ちゃん訪問や乳幼児健診等の補助活動を通し、身近な相談役として母親に関わり、育児不安や孤立を予防するため保健師とも連携し子育て支援に尽力。15年前には、図書館ではおはなし会とい

うボランティアメンバーとして園児への大型紙芝居の読み聞かせや、教育機関での禁煙教室実施。現在も幅広い年齢の子供たちと関わりを持つ。離乳食指導では、むし歯予防の講話を行い、むし歯罹患児数減少に貢献。1歳児家庭訪問では折り紙の小物入れや鈴入りボール等持参、子どもの成長の見守り役として活躍。H26-27年杵藤支部監事、H26年所属団体本会議会長表彰受賞。

**【長崎県】川島真須美(平戸市母推)** H11年旧田平町母推。H17年平戸市と合併後、現在まで平戸市母推として活動中。妊産婦や乳幼児健診、相談事業への受診勧奨や個別相談でさまざまな悩み相談に応じている。積極的に親子に声掛けを行い、対象者と行政のパイプ役として地域での子育て支援に尽力。S53～61年幼稚園勤務、H11～H13年・H17年～現在まで保育園勤務。3歳児健診時には保育士としての専門性を発揮し、保育士指導や母子分離時の集団活動等も行い、母親の育児不安解消に関わる。日々こどもや保護者と接し、地域からの信頼も絶大である。

**【大分県】伊藤佑士(医師)** S56年旧杵築市に小児科循環器科医院開業。小児科不在地域、市内唯一の小児科医として子どもの診療に従事。乳児健診、育児・発達の観察に重点をおき、健診体制づくりの礎を築いた。医師会内の調整を図り、予防接種体制構築。学校医、産業医として学童期・青少年期健康管理、障害福祉施設園医として障がい児の発達支援や疾病の早期発見に尽力。H25年「5歳児相談会」、H28年「子育て世代包括支援センター」の立ち上げに貢献。H18年～同市要保護児童対策地域協議会参画、H21～23年同市医師会会長、H25～27年同会議長、H27～29年大分県医師会理事。

**【宮崎県】堀田江理(助産師)** H11年～日南市の助産院に勤務、分娩業務・母乳育児の推



母子保健推進員が計測を担うところも

進・産後ケアサポート・妊産婦相談等多岐にわたり従事。産婦主体のお産を取り入れ、産前から産後に渡る母親の心身両面からのサポートは信頼と評価を得る。H21年～日南市母子訪問指導員、H26年～同市養育支援訪問員、産後うつ予防・早期発見に貢献。S62年の開業時発足の育児サークル「M&K(マミー&キッズ)」の継続運営に尽力、母親の相談や交流の場を作る等自主活動グループへの発展に寄与。H25年～宮崎県助産師会助産所部会長、H28年10月アドバンス助産師認定。**【沖縄県】吉元節子(那覇市母推)** H4年～那覇市母推。27年間子育て応援訪問(乳幼児健診未受診訪問)等、保健師と連携して実施。受け持ち地区以外も訪問、会えない家庭は粘り強く訪問し受診勧奨。H19年3歳児健診会場の待ち時間を利用し、紙工作のお弁当づくりによる食育活動立ち上げ。小中学校では、妊婦体験・胎児人形等を通して、喫煙の胎児に及ぼす影響等について伝える。保育ボランティアとして、市内発達支援センターやダウン症児の親子のつどい「たんぼぼだん」協力。H8～9年那覇市母推協議会副会長、H20～29年同協議会理事、H21年沖縄県母子保健大会大会長表彰受賞、H23年同大会にて県知事表彰受賞。

**【沖縄県】照屋良子(糸満市母推)** H3～22年糸満市民生委員・児童委員、H6年～母推として25年間活動中。乳幼児健診等に協力、



健診未受診者に個別訪問実施、受診勧奨。訪問家庭の相談内容も多様であるため、柔軟に対応しながら積極的に関わりを持ち、行政と連携を図り適切な子育て支援を行う。市主催の健康福祉まつり等に協力、地域の保健福祉向上にも尽力。自治連絡員や民生委員・児童委員としても長年にわたり地域に奉仕し、幅広い人脈で大いに活躍。H13年沖縄県民生委員・児童委員大会長表彰、H22年厚生労働大臣賞受賞（民生委員）、H23年沖縄県母子保健大会受賞、H27年同大会県知事賞受賞。

**【沖縄県】中林ヒデ（浦添市母推）** H16年～15年間乳幼児健診やベビースクール等で母子保健事業に従事。自治会活動や民生委員も務め、地域をよく把握し、気づいた点を事業担当に積極的に伝える。健診未受診者訪問や、H20年～「はぐはぐでいっ子事業」（こんにちは赤ちゃん事業）での訪問活動を通して母子保健の啓発に努めている。H22年～母推として保育所や児童センターにて指人形による公演活動。ボランティアまつり等で踊りを披露する際も、先頭に立ち他母推に踊りを教え、練習に励み活躍。JICA研修生との交流会等では「さーたーあんだぎー」を振る舞う等気配りを欠かさない。H29年沖縄県母子保健大会長表彰受賞。

**【沖縄県】平田美砂子（沖縄市母推）** H11年～母推として乳幼児健診未受診者訪問や受診勧奨等精力的に活動。生命誕生のすばらしさ等伝える思春期教育劇「未来へ」で活用した教育媒体「妊娠シュミレーター」作成、現在も修復し市内中学校で活用。H22年度～毎年度市内保育所等で「食育劇3色のまほうってな～に？」を上演（本会議主催「健やか親子21-8020の里賞（ロッセ賞）」優秀賞受賞）、食育、歯みがきの重要性を伝え、改良を重ね、年々上演希望園が増加。H24～25年度沖縄市母推協議会理事、H26～29年度

同協議会会長。沖縄県母推連絡協議会活動として新人母推向け教育冊子作成等にも尽力。H30年沖縄県母子保健大会長表彰受賞。

**【沖縄県】眞栄城恵子（南城市母推）** H5年～旧佐敷町母推、合併後南城市母推として26年間にわたり活躍。乳幼児健診の準備作業や離乳食実習時の栄養士の補助等に従事。H20年～こんにちは赤ちゃん事業において生後4か月までの家庭を訪問、母親の不安や悩みを傾聴、経験を活かした助言も多く、母親からの人望も厚い。把握した問題点は市母子担当者と連携をとり、家庭と行政の架け橋となっている。研修会や交流会にも積極的に参加、他市町村との情報交換を行う等他母推の模範となっている。地域行事へボランティアとして関わり、住民からも信頼度が高く、幅広い分野で活躍している。H23年沖縄県母子保健大会大会長表彰受賞。

**【千葉県】北奥美弥子（千葉市地域保健推進員）** H13年～地域保健推進員として19年間活躍中。生後2か月児の家庭訪問、温厚な人柄と笑顔で母子のよき相談相手となり、地域と行政のパイプ役を担う。保育士資格を活かし、子育てサークルを運営、母子にとって居心地の良い場、母親同士の交流の場を提供する等、安心して子育てができる環境づくりを推進。市の児童家庭支援センターにも勤務、支援が必要な子育て家庭に熱心に関わるほか、主任児童委員として子どもたちを見守り、保護者の子育てで不安の相談・援助も行う等、子どもが健全に安心して暮らせるよう尽力。H19年千葉県保健所長感謝状、H25年千葉県長感謝状を贈呈される。

**【千葉県】二階堂敬子（千葉市地域保健推進員）** H14年～地域保健推進員として18年間地域に根差した活動を実施している。生後2か月児のいる家庭訪問を通じ、市の母子保健及び子育て支援情報を届けるほか、看護師資

格を活かして、真摯に保護者の不安や悩みを傾聴し、助言する等、母子に寄り添う支援を心掛ける。母子の小さな変化も見逃さず、保健師等につなぐ等、地域と行政のパイプ役を長年務め、地域の母子保健推進に大いに貢献している。母親からの信頼度も高く、他の地域保健推進員の模範となっている。H20年千葉市保健所長感謝状、H26年千葉市長感謝状を贈呈される。

**【新潟市】在原初子（助産師）** S51～56年新潟市民病院産婦人科勤務。妊娠期から子育て期の母親と家族を支援。S61年～開業助産師として市より妊産婦・新生児訪問指導受託。妊婦が安心して妊娠期を過ごし出産できるよう寄り添う。現在は退院後、授乳や育児に不安を感じる母親たちへ自信をもって育児ができるよう支援。研鑽を積み小学生向け性教育講座「命の授業」実施。H12年～8年間新潟県助産師会教育委員として貢献。市の相談事業として電話や来所の育児相談に尽力。現在も臨床の場で豊富な知識と経験、信頼できる技術をもって若年妊婦のケアはもとより、更年期の女性のケアも行う。H28年アドバンス助産師取得。

**【浜松市】高洲昌子（助産師）** H元年～7年間病院産婦人科勤務、約500件の分娩助産実施。妊婦健診、1か月健診従事、妊産婦褥婦や児のケアをトータル的に実践。H12年高洲助産院開業後、市の母子保健事業等に従事、こんにちは赤ちゃん訪問3500件対応、児の成長発達だけでなく、産婦の心身の相談や女性主体の受胎調整等きめ細かく指導。H23年～地域母子が集う子育て支援ひろばで育児相談に対応。H25年～浜松市北区要保護児童対策協議会代表者会議委員。養育支援訪問員や妊娠SOS相談事業相談員として社会的リスクが高い対象者へ助言。H28年アドバンス助産師取得。

**【名古屋市】岡本理恵(名古屋市保健師)** S63年～名古屋市保健所勤務。H20～23年度母子保健事業検討会へ委員として参画、統括的立場より母子保健活動の推進に尽力。「児童虐待対応の手引き第2版」作成、虐待対応強化を図る。母子保健システムを導入し、情報共有・連携を円滑にした。本システムを活用し、健診未受診者の漏れをなくし、対応のスキーム構築。県下統一の妊娠届出書を全市一斉に使用開始、アンケート項目を用いて要支援家庭明確化。市医師会や県産婦人科医会等との研究会を設置。相談窓口「なごや妊娠SOS」立ち上げ、予期せぬ妊娠への対応開始。H28年～保健所保健予防課長、H30年～本庁子育て支援課長。

**【神戸市】毛利多恵子(助産師)** S57年～30年間助産師として病院や地域助産所で母子保健に従事。8年間助産師育成に関わり、現在も助産教育の非常勤講師及び助産教育機関より実習を受け入れる。神戸市助産師会会長(現職)として産後ケア事業の開始・拡大に神戸市とともに尽力。自ら助産所でも年間90ケースの産後ケアを行う。市内の90%以上の中学校に28名の助産師が性教育を実施する体制を築き、性教育講師として活動。(一社)日本助産学会理事6年2期、日本助産師会兵庫助産師会理事6年2期務めるなど、地域母子保健の向上に多大に貢献。

**【北九州市】落水仁子(助産師)** H26年～16年以上にわたり戸畑・八幡西区において妊産婦・新生児訪問指導従事。母親学級や乳幼児なんでも相談にて個別相談対応を15年以上継続。中学校において区主催の多胎児教室に助産師として、双子の子育て経験者として出務。更年期の女性の健康や乳がんセルフチェック講話、幼稚園児保護者対象の子育て講座を行う等幅広く活動。「にこにこおっぱい相談室」ではお金を出せない人の役に立

ちたいと自宅の電話番号を福岡県助産師会のホームページで公開、15年以上無料で応じる。H30年～「ばあばのしゃべりば」と称し、月2回親子対象に居場所提供や相談も行う。

**【高崎市】岩崎由美子(高崎市母子等保健推進員)** H16年～15年間、母子等保健推進員として乳幼児訪問や地区活動、乳幼児健診の教室の手伝いを行い、市と子育て家庭を繋ぐ役割として活躍。当初より地区代表として責任感及びリーダーシップを発揮、推進員7名をまとめるとともに、アドバイスや相談役となっている。H28年～会員570人を抱える高崎市母子等保健推進協議会の本部役員書記として運営に貢献、H26年～会員同士の交流や活動内容の共有を目的とした機関紙「たより」作成。自身の子育て中は、PTA本部役員として地域に貢献、公私にわたり地域の母子保健活動に尽力。

**【越谷市】橋井日出子(助産師)** S42年日本赤十字病院へ助産師として入職。S43年～越谷助産院(自宅)にて分娩のサポート、妊産婦、新生児の指導・支援を長きにわたり行ってきた。S60年～越谷市より委託をうけ、妊産婦及び新生児訪問を現在まで34年にわたり行い、5000件以上の訪問を実施。地域の母子保健に貢献する。妊娠期から子育て期に不安を抱える母親を心身両面からサポートし、地域住民や行政からの信頼も厚い。その人柄と経験の豊富さより助産師会でもリーダー的存在である。H18年埼玉県知事賞受賞、H24年日本助産師会会長賞受賞。

**【横須賀市】森田佳重(横須賀市保健師)** S59年～12年間地区担当保健師として母子保健活動に従事。子育て世帯が少ない地域の町内会や地区社協に働きかけ、「妊産婦おしゃべりサロン」を立ち上げ妊産婦の孤立化を防ぐ。H17年～健康福祉センター館長として、担当をチーム制にしケース対応を強化、月1

回チーム会議を行い事例検討を実施する等児童虐待防止のための予防的介入に注力。母子保健情報をデータベース化、住基情報と連携させ母子健康手帳交付時からの情報を一元化し、フォローのシステム化を図った。H27年～こども健康課長として母子保健事業推進、今年度より「特定妊婦等に対する産科受診等支援事業」を実施する。

**【松山市】河本康子(松山市母推)** H16年～母推として活動。H17年、健診の待ち時間を利用し、紙芝居や絵本の読み聞かせを行うグループを立ち上げ、読書の大切さ、楽しさを伝えている。読み聞かせ時のエプロンや、人形を率先して制作。こんにちは赤ちゃん訪問事業では、きめ細やかな配慮で傾聴し地域で信頼されている。H18年～子育てサロンのスタッフとして乳幼児支援に尽力、H19年～地域保育園評議委員も務める。豊富な社会経験を活かし、地域の親子に寄り添い、新会員の指導にもあたる。そのほか、地域の婦人会組織、婦人防災クラブで家庭間の交流を深め、地域行事にも参加、社会福祉向上に貢献。

**【中央推薦】岡田寿朗(歯科医師)** S61年～岡山大学歯学部勤務、H7年～高松市に岡田歯科醫院開業。県行政と連携し妊産婦への歯科口腔保健普及啓発、乳幼児むし歯ゼロ推進事業の企画推進に携わる。県教育委員会と共催で、永久歯のむし歯と歯肉炎予防を推進。H14年～校区の小学校医と幼稚園医を務める。日本歯科医師会地域保健委員会委員として国民への産婦・乳幼児・小児の歯科保健普及に務め、本紙「8020の里づくり」コーナー連載執筆担当。本会議制作歯科保健普及啓発用パネルの指導監修。香川県歯科医師会常務理事を10年間、日本歯科医師会地域保健委員会委員長を5年間等歴任。

**【中央推薦】松本清美(長野県上田保健福祉事務所保健師)** S60年～長野県保健師。

H13～16年長野保健所で「極低出生体重児親の会」を立ち上げる。H15年思春期ピアカウンセラー養成事業に取り組み、県事業として当事者参加型の思春期保健を推進。H26年～日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会理事。県庁母子保健担当時には「母子保健者のための児童虐待防止マニュアル」「母子保健関係者のための発達障害児早期発達支援ガイドブック」作成、支援者の資質向上に寄与。H19年～長野県性教育研究会事務局局長として関係者と連携強化。本会議実施「子育て世代支援者セミナー」講師、全国の保健師等に対して妊娠期から子育て期の母親に寄り添うスキルを伝える。

**【中央推薦】三澤洋子（藤沢市歯科衛生士）**  
H12年～藤沢市保健所に非常勤として母子保健事業に従事、むし歯予防ハイリスク事業等に携わり、H21年～同保健所職員、H27年同市歯科保健推進条例制定、同市歯科保健推進計画策定に尽力。H27年～30年（公社）日本歯科衛生士会理事として全国歯科口腔保健に寄与、本会議「健やか親子21-8020の里賞（ロツテ賞）-」審査委員も務める。乳幼児期・学童期対象にむし歯や歯肉炎予防対策として歯と口の健康づくり推進事業展開。「夏休み親子で体験教室～噛み噛みサイエンススクール」を企画。児童クラブで歯みがき教室実施、保育園給食時間に巡回訪問し食べ

方を観察、指導するなど対象者に合わせた指導を行い、地域の歯科保健の向上に貢献。

### 団体の部

**【岩手県】北上市民生委員児童委員協議会（会長・佐藤彧子）** H3年設立。北上市の民生委員・児童委員で構成され、地区民生委員児童委員協議会（10協議会）をもって組織。計201名が活動。H21年児童福祉法で「乳児家庭全戸訪問事業」が市町村の努力義務となり、同市がこんにちは赤ちゃん訪問を同協議会へ依頼。訪問開始から今年度で11年目となる。対象を2～4月児とし、子育てガイドブック等資料を届け身近な相談者として、乳児を抱える家族と地域のつながりに貢献。面接のできないケースは保健師と打ち合わせ、情報共有し訪問に取り組む。訪問活動はその後の見守り活動に活かされ、問題を抱えるケースの早期発見・支援等に関係機関と連携し活動している。

**【千葉県】長生村保健衛生推進協議会（会長・小高智恵子）** S50年設立、保健衛生推進員21名で活動開始、S59年～活動充実のため増員、現在47名で活動中。S56年～「親子料理教室」「3歳児健診時の手作りおやつ配布」、H14年～保育所年長児対象「ちびっこクッキング」等実施。H21年～3歳児健診時身体測定補助等担当、H23年～1歳6か月児健診協力。H25年～ママパパ教室、離乳食教室活動、試食配布を行っている。設立当初から妊婦・新生児訪問実施、H20年～こんにちは！赤ちゃん事業として4か月児までの全戸訪問実施、H26年～乳児家庭全戸訪問事業として現在も実施。保健

センターとのパイプ役となり、母親の不安解消の一助、地域ぐるみの子育てに大いに貢献している。

**【岡山県】総社市常盤地区愛育委員会（委員長・岩本末由希）** 昭和26年設立。現在会員数46名。S46年～乳幼児健診受診勧奨、母乳育児推進。S47年～妊婦・乳幼児家庭訪問推進、H9年～総社市母子保健計画による子育て支援活動推進、子育て支援交流事業による子育て支援活動推進、H26年～健康そうじゃ21による健康づくり推進。設立当初から母子保健活動展開。市内中心部地区は宅地・アパートも多く住民同士のつながりが薄いため、親子が孤立しないよう声かけを徹底、社会福祉協議会、民生委員、栄養委員等と子育て支援交流事業を立ち上げる。親子クラブへの活動応援も行い、地域のお母さん役として尽力。乳幼児健診等でも受診しやすいよう子守り等に協力している。

**【中央推薦】プロクター・アンド・ギャンブル（P&G）・ジャパン株式会社（代表取締役社長・スタニスラフ・ベセラ）** H18年～NPO「仕事と子育て」カウンセリングセンター支援。H23年東日本大震災被災地支援、H25年関西広域連合と災害備蓄に関する協定締結。母子に対する災害支援に取り組んでいる。H21年～本会議賛助会員となり、協働の事業として妊娠期から乳幼児期の母子保健事業（母子健康手帳交付・健診・教室・訪問等）時配布教材セット制作、配布を開始、10年余継続。子どもの発達の特徴、留意点等をまとめた冊子（専門医指導監修）を数種類制作、月齢別紙おむつ数枚専用のポリバックにセットにし、自治体から希望を取り、希望時期に無償配布を行い、自治体から高評価を得ている。H30年度は全国自治体の80.1%に配布。健診の満足度が向上する等、事業の継続を希望する自治体も多い。



鹿児島県母子保健関係者研修会で熱心に研修を受ける関係者

紙上セミナー SEMINAR

# 8020の里づくり

## お口の健康と全身の健康との関係 ～「香川県 歯の健康と医療費に関する実態調査から」～

### 1. はじめに

お口の健康と全身の健康が密接に関係あることをご存じでしょうか？

私が所属する香川県歯科医師会では、平成17年から「歯の健康と医療費に関する実態調査」を、平成28年度からはそれ以外に「歯の健康と要介護度に関する実態調査」を行っています。

これは毎年5月に歯科医院を受診した40歳以上の受診者のうち、承諾を得た方の「現在歯の数」、「歯周病の程度」、「歯科健診の受診頻度」を調査し、また調査対象者が介護保険制度の利用者であれば、その方の3年後の要介護度別サービス受給状況等についても調査したものであり、調査分析対象者数は約2.2万人にもものぼる大規模な調査です。

なお、実施にあたっては、香川県内各市町保険者、香川県国民健康保険団体連合会、香川県後期高齢者医療広域連合にご協力いただき、調査対象者の診療報酬明細書や介

護報酬明細書等の情報から、内科、歯科、調剤にかかった医療費等との関係を分析しています。もちろんこれらの調査における個人情報等はすべて暗号化され、個人名は絶対に特定されない状態で行われています。

### 2. お口の健康状態がいと

#### 医科の医療費も少ない

まず、現在の歯の数と全身の病気に係る医科（内科、外科、産婦人科、眼科等を含むすべての診療科目）の医療費との関係を見てみます（図1）。それによると現在歯の数が少ないほど医科の医療費が高くなっています。具体的には0～4歯しか残っていない人は、20歯以上残っている人より1年間で約18万円も医科の医療費が多かかっています。



次に歯周病の程度と医科の医療費との関係です（図2）。歯周病の程度が重度になるほど医科の医療費が多くなっています。特に重度の歯周病の人は歯周病が軽度な人より1年間で約24万円も多くなっています。

また、1年間に歯科の定期健診を受ける回数と、医科の医療費との関係を見てみると（図3）、歯科健診を多く受ける人ほど医科の医療費が少なくなっています。歯科健診を一度も受けていない人は、歯科健診を年3回以上受けている人より1年間で約13万円多く医療費がかかっているのです。

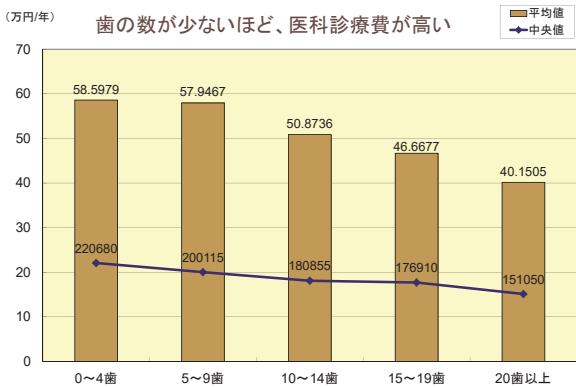


図1 現在歯数別医科診療費

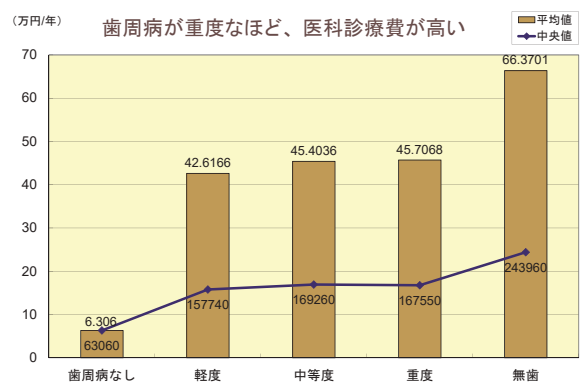


図2 歯周病の程度別医科診療費

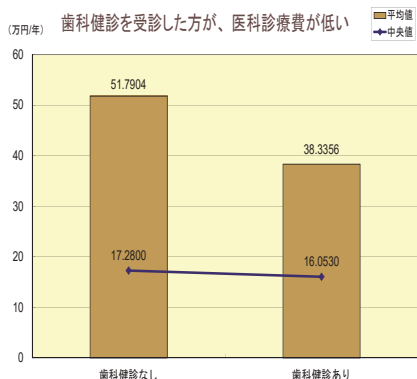


図3 歯科健診受診有無別医科診療費

### 3. お口の健康状態がいいと

#### 要介護度別サービス受給率も低い

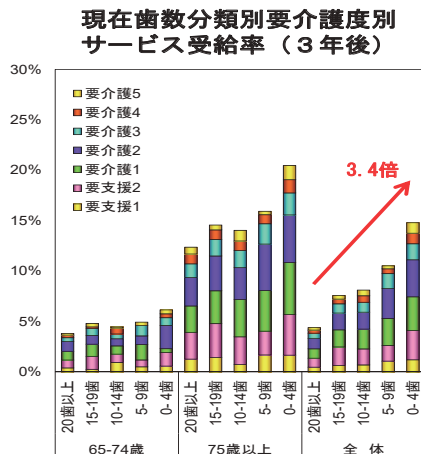
では歯の健康と要介護度に関する関係はどうでしょうか？実は、医科の医療費のケースと同じく、お口の状態で要介護度にも密接な関連性があります。

歯の数が少ないほど介護サービスを受けている人の割合が多く、具体的には0～4本しか歯が残っていない人で介護サービスを受けている人の割合は、20本以上残っている人に比べて3.4倍も多くなります（図4）。また介護を受けている人の中で0～4本しか歯が残っていない人は、20本以上残っている人に比べて中～重度（要介護度2～5）の判定になる人が3.5倍も多いという結果となっています。

### 4. 終わりに

香川県でのお口の健康と全身の健康及び要介護度に関する調査結果について、その要点をまとめて記してみました。お口の状態で全身の状態には密接に関連性があるということがおわかりになりましたでしょうか？

お口の中の歯の本数と医科の医療費に密接な関係があることについては、国が保有するレセプト情報等の分析や他県において実施されている同種の調査からも指摘され

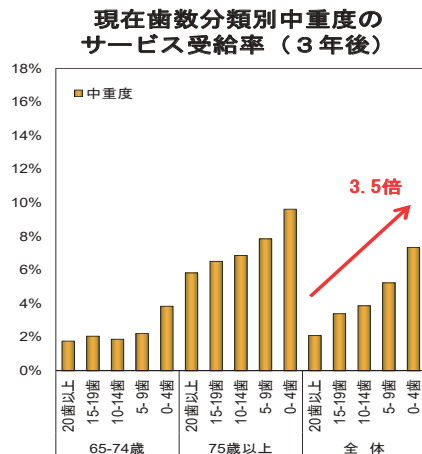


● 歯の数が少ないほど介護サービスを受けている人は多い（0-4歯は20歯以上の3.4倍）

図4 現在歯数分類別要介護度別サービス受給率ならびに現在歯数分類別中重度のサービス受給率（3年後）

ているところですが、介護サービスの受給率や受給されている人の要介護度にまで大きく関連していることは、調査を実施した我々にとっても大きな衝撃でした。

日本人の平均寿命は、平成29年のデータでは男性81.09歳、女性は87.26歳となっていますが、一方健康寿命はというと、平成28年のデータで男性は72.14歳、女性は74.79歳とされています。この平均寿命から健康寿命を引いた期間が、介護を必要としたり病悩期間であったりするわけです。



● 歯の数が少ないほど中重度の要介護が多い（0-4歯は20歯以上の3.5倍）

が、お口の健康を保つことで健康寿命の延伸に直接寄与することが可能となります。

もちろんそのためには、毎日の丁寧な歯磨きと定期的に歯科医院を受診して専門的な口腔ケアを受けることが大切であることは言うまでもありません。

今回のお話でお口の健康に対する意識をさらに高めていただければ幸いです。

公益社団法人 日本歯科医師会

地域保健委員会委員 岡田 寿朗

## 8020ひとくちメモ マウスウォッシュをご存じですか？

皆さん、マウスウォッシュという液体状のオーラルケアグッズをご存じでしょうか？

このマウスウォッシュの利点は、液体であるためにお口の中の隅々まで届く点が挙げられます。と言うのは、歯ブラシだけだとどうしても奥歯や歯と歯の間の隙間等の細かいところまで歯ブラシの毛先が届かず、汚れが残ってしまいがちです。しかし歯磨き後にマウスウォッシュを用いてよく洗口する

ことで、口腔内細菌（雑菌）の繁殖を抑え、歯肉炎の予防や歯垢の沈着の抑制、さらに口臭の防止にも寄与することで、よりお口の中全体を清潔に保つことが期待できるのです。

また使われたことがない方は、一度試してみられてはいかがでしょうか？

なお、マウスウォッシュを選ぶ際には、外箱に書かれている効能効果や注意事項を読んでから選ぶようにしてください。

# 予期せぬに真に対する相談体制の現状と課題に関する調査結果報告④

平成30年度「子ども・子育て支援推進調査研究事業」として実施した『予期せぬ妊娠に対する相談体制の現状と課題に関する調査研究』に中から、4回目となる今号では、市町村に対する調査の結果から、その一部を紹介する。

## 1. 相談の実施状況

1,644自治体に調査を行い、回答は633自治体(38.5%)であり、都道府県等の回答率86.9%に比して低かった。中核市未満自治体が対象であることから、女性健康支援センター事業の対象となっていないことも関心が薄い理由として考えられる。予期せぬ妊娠の相談は240自治体(37.9%)が実施、そのうち専用窓口を設置しているのは69自治体(28.8%・設置予定含む)、1/4であった。

相談方法は、「電話(専用回線)」21自治体(8.8%)、「電話(専用回線でない)」216自治体(90.0%)、「メール(専用問い合わせフォーム)」3自治体(1.3%)、問い合わせフォームはないが特化したアドレスあり51自治体(21.3%)であり、通常の相談の中で対応しているところがほとんどであった(図1)。

## 2. 相談内容

「非常に多い」のは「子育て全般に関

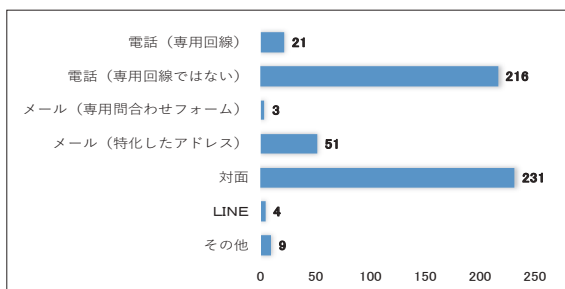


図1 相談方法

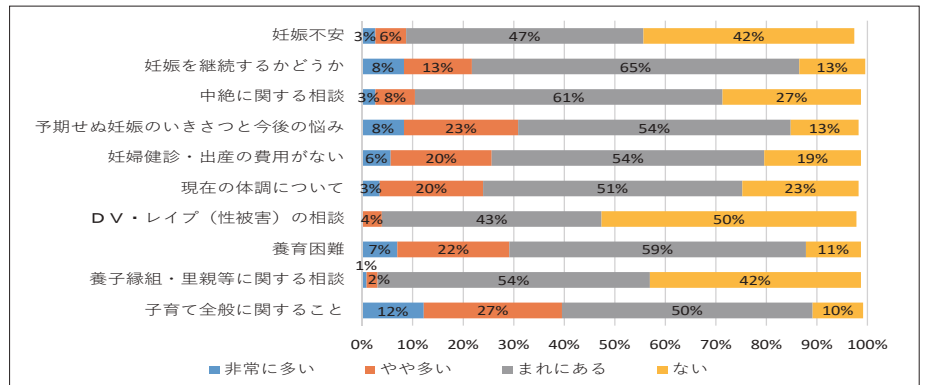


図2 相談内容

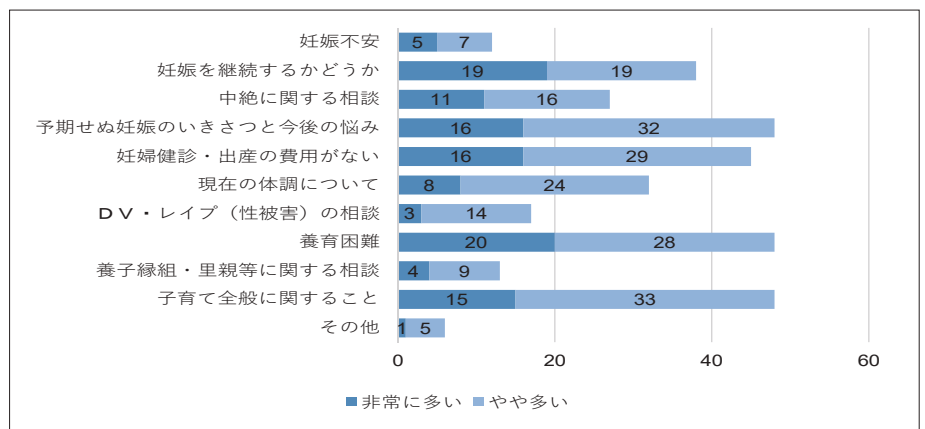


図3 対応困難な内容

すること」28自治体(12.2%)、「妊娠を継続するかどうか」と「予期せぬ妊娠のいきさつと今後の悩み」がともに19自治体(8.3%)であった(図2)。

関係機関へのつなぎは、220自治体(95.7%)が行っており、つなぎ方法としては、相談員が関係機関へ連絡を行っているのが180自治体(81.8%)であった。つなぎ先では「医療機関」が182自治体(82.7%)が最も多かった。

同行支援も144自治体(65.5%)と多く、直接相談から支援が行われていることがうかがわれた。同行先は「市町村福祉担当窓口」115自治体(79.7%)、医療機関100自治体(69.4%)が多かった。

## 3. 対応困難な事例

対応困難な事例としては、「非常に多い」と「やや多い」を合わせると「養育困難」、「予期せぬ妊娠のいきさつと今後に対する悩み」、「子育て全般に関する事」が48自治体(27.4%)、ついで「妊婦健診・出産の費用がない」45自治体(25.7%)であった。対応困難な内容では、「福祉に関する事」129自治体(73.7%)、「出産等費用に関する事」117自治体(66.9%)、「児の養育に関する事」116自治体(66.3%)であった(図3)。相談員が看護職が多いためか都道府県等と同様、福祉に関するものが多かったが、「相談者との連絡の方法に関する事」は86自治体(49.1%)で、都道府県等より25%少なかった。

## 2020年の第5回幼児健康度調査に向けて ～第66回小児保健協会学術集会ひらかれる～

令和元年6月20日(木)から22日(土)にかけて、第66回日本小児保健協会学術集会がタワーホール船堀(東京都江戸川区)で開催された。集会2日目にはイブニングセミナー「2020 幼児健康度調査の50年～子どもとともに50年～」が開かれた。

「幼児健康度調査」は全国の満1歳から7歳未満の未就学児を対象に、幼児の心身

の健康や日常生活及び発達の状態を把握する調査であり、昭和55年(1980年)から10年ごとに実施され、来年2020年に5回目の調査が実施される予定である。

### 各時代の子どもの健康や

#### 生活習慣をあらわす幼児健康度調査

まず日本小児保健協会の秋山千枝子会長

より小児保健における幼児健康度調査の意義について概説があった後、同協会の衛藤隆名誉会長より同調査の結果を用いて見える子どもの健康課題や育成環境の変化について講演があった。

夜10時以降に就寝する児の割合は、どの年齢でも昭和55年から平成12年まで増加傾向にあったが、

平成22年の同調査で減少傾向にあることがわかった(図1)。起床時間も早くなっており、平成18年度に始まった国民運動「早寝早起き朝ごはん」等の取り組みもあってか、子どもの夜型の生活が改善傾向にあることが明らかとなった。

### 新規調査項目に貧困、スマホなど

同協会第5回幼児健康度調査委員会の松浦賢長委員長によると、次回調査では時代背景を考慮した新たな調査項目も盛り込まれることが検討されており、多胎児の子育て、貧困、スマートフォン等メディアとの接触、子育てにおける懲戒、社会的孤立、父親の主体的育児等に関する課題の項目が挙げられている。今後、調査項目の再検討を含めた準備が進められる。

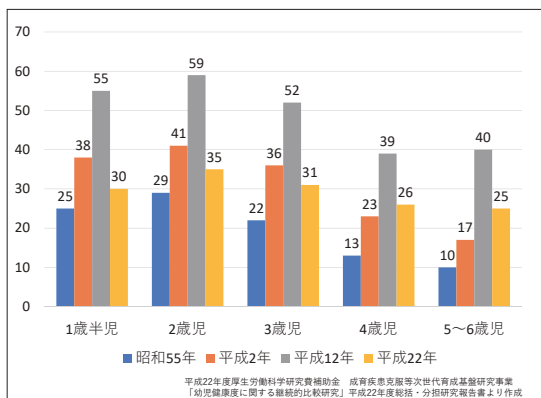


図1 夜10時以降に就寝する児の割合

## 児童虐待と法医学の連携強化、母子健康手帳の多言語化に注力

厚生労働省2019年度子ども・子育て支援推進調査研究事業(第2次公募)にて、本会議は下記2課題について採択され実施することとなりました。本会議会長を代表研究者とし、課題ごとの専門の方々、先駆的に取り組む自治体担当者等から成る委員会を設置して実施します。自治体母子健康主管課、関係機関への現況調査等も予定しております。ご協力いただきたく、お願い申し上げます。

### 1. 児童虐待対応における法医学との連携強化に関する研究

#### 【実施内容】

法医学者は、子どもの受傷データから、怪我が虐待かを識別する専門性を有していることから、児童虐待対応における法医学

的知見を活用し、自治体とどのように連携していくかについての調査研究。

- ①児童相談所および中核市の要保護児童対策地域協議会所管部署に対して法医学との連携の現況調査
- ②法医学と連携している自治体に対するヒアリング調査
- ③法医学教室に対する現況調査
- ④法医学者へのヒアリング調査
- ⑤法医学者との連携による児童虐待対応・支援のためのリーフレットの作成

### 2. 母子健康手帳の多言語化および効果的な支援方法に関する調査研究

#### 【実施内容】

外国人妊婦が日本で母子保健情報を円滑に入手し活用することで、安心して出産、

子育てができることを目的とする。

#### ①多言語化された母子健康手帳の作成

在留外国人の90%に対応できる10言語(英語・中国語・韓国語・スペイン語・ポルトガル語・ベトナム語・インドネシア語・タイ語・タガログ語・ネパール語)の母子健康手帳を令和元年度の任意様式部分の改正を反映させ、各国の文化的背景等を考慮し作成する。

- ②全市区町村に対する外国語版母子健康手帳の交付と支援に関する調査
- ③在留外国人が多く居住し工夫して支援している自治体に対するヒアリング
- ④妊娠から子育てまでの一連の流れや注意すべきポイント等をまとめ10言語に翻訳し、母子健康手帳とともに対象者に手渡すリーフレットを作成。

シンポジウム  
ご案内

# 子育て世代包括支援センターで目指す妊娠期からの切れ目ない子育て支援 ～1日でわかるみんなの工夫～

子育て世代包括支援センターのより効果的な展開を目指してこれまでの研究成果を報告するとともに、自治体の好取組を発表していただきます。(受講料無料)

日時 2019年12月17日(火)

会場 新宿区新宿文化センター小ホール

対象 本テーマに関心のある方 200名

申込 母子保健推進会議ホームページよりお申し込みください。

お問い合わせ 03-3267-0690

主催 厚生労働省科学研究費補助金  
(代表研究者 佐藤拓代)

共催 公益社団法人 母子保健推進会議

【午前の部】 10:00～11:50

趣旨説明

子育て世代包括支援センターと地域づくり

山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座教授 山縣然太郎

子育て世代包括支援センターのPDCA

あいち小児保健医療総合センター保健センター長 山崎 嘉久

「利用者目線」と「顔の見える関係性」

吉備国際大学保健医療福祉学部教授 高橋 睦子

【午後の部】 12:50～16:30

支援の切れ目に落とさない支援プラン作成と支援

大阪府立大阪母子医療センター母子保健情報センター顧問 佐藤 拓代

子育て世代包括支援センターに生かすネウボラのエッセンス

大阪市立大学大学院看護学研究科教授 横山 美江

産後ケアでつなぐ施設分娩と家庭育児

東邦大学看護学部教授 福島富士子

取り組み報告 福島県湯川村・福井県高浜町・富山県富山市

ディスカッション



### 日本歯科医師会、新役員就任披露パーティー開く




就任披露パーティー

挨拶する安倍首相

公益社団法人日本歯科医師会の新役員就

任披露パーティーが9月12日(木)、ホテルニューオータニ(東京都千代田区)に、全国から各都道府県歯科医師会の各代表ほか政界、関係団体、企業等から多数の参加者を集め、盛会裏に行われた。

### ポスター「ママ、パパ、タバコすわないで」完成!



11月の母子保健強調月間に合わせ、本年度も妊娠期から子育て期の禁煙のポスターを制作しました。来年4月から受動喫煙防止法が施行されることに伴い、なぜ乳幼児の近くで喫煙がよくないかについても、わかりやすく解説しています。健診、教室の会場等妊婦さん、子育て中の方の目にとまりやすい所に掲示してご利用ください。

## 編集帖

健やか親子21国民運動は19年目を迎えている。厚労省では健康日本21国民運動が始まっていた。当時の藤崎青道母子保健課長は次世代育成の視点から、母子保健子育て支援対策が後れを取ってはいないか、「健やか親子21国民運動」を立案した。討議の中で筆者は「母」から「親」を推奨、健やか親子21国民運動とした。同時に国民運動は学術研究、運動団体にとどまらず、民衆の参加が望まれること、母子保健推進員組織の支えこそ重要と、全国母子保健推

進員連絡協議会結成を望まれた。筆者も発起人となり平成12年京都府で開催された健やか親子21全国大会の前身である母子保健家族計画全国大会時に藤崎課長も同席され、林タカ枝山口県母推協議会会長を初代会長に「全国母子保健推進員等連絡議会(略称全母連)」が結成された。以来母子保健支援チームの一員として母子保健推進員は欠かせない存在として活動されている。千葉県大会においても会場を母子保健推進員等が多数占めているのではないかと。(H)



発行：公益社団法人 母子保健推進会議  
 発行人：原澤 勇 編集人：鎌溝和子  
 協力：全国母子保健推進員等連絡協議会

---

東京都新宿区市谷田町 1-10  
 保健会館新館 (〒162-0843)  
 TEL.03-3267-0690 FAX.03-3267-0630  
 Eメール bosui@bosui.or.jp  
 URL http://www.bosui.or.jp

---

年間購読料 2,640円(税別込み)  
 母子保健推進員等特別価格  
 年間購読料 1,320円(税別込み)  
 郵便振替口座 00120-9-612578